博　多　195

―博多遺跡群第 244 次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1483 集

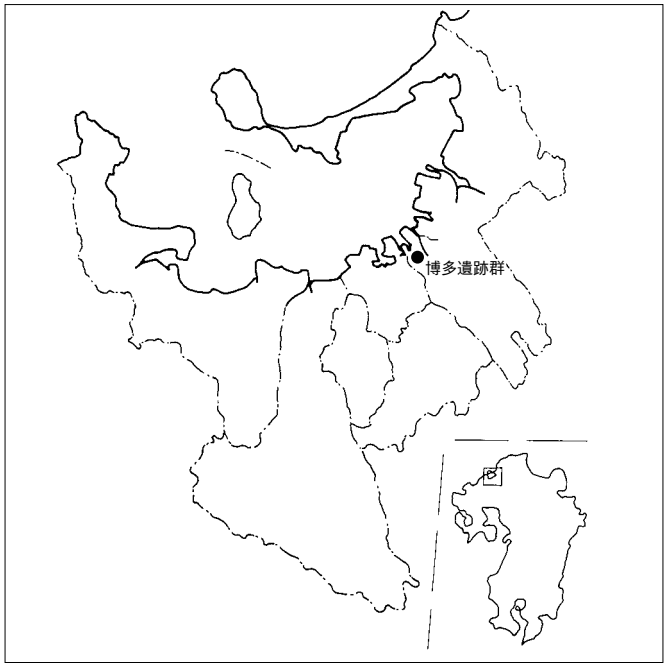
２０２３

福 岡 市 教 育 委 員 会

博　多　195

—博多遺跡群第 244 次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1483 集



２０２３

福 岡 市 教 育 委 員 会

SE03 出土青磁

序

福岡市には、豊かな自然と、文化遺産がのこされています。地理的位置から、古くから対外交渉の拠点の一つとして大きな役割を担ってきました。

これら先人の遺産を保護し未来へと伝えていくことは、私たちの重要な務めです。

福岡市教育委員会では、開発によってやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録の保存、出土遺物などの活用に努めています。

本書は、ホテル建設に伴い、令和２年11月から令和３年１月にかけて発掘調査を実施した博多遺跡群第244次調査の成果を報告するものです。遺跡のある博多は中世において対外交渉の一大拠点として大きな役割を果たしました。今回の報告はその交易活動に関わる場とみられる区域の調査で、調査成果は、対外交渉史を解明する上での一助になるものと考えます。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から本書の刊行に至るまで、アパホーム株式会社をはじめ、関係者の方々からご理解とご協力を賜りましたことに対し、こころからの感謝の意を表する次第です。

令和５年３月23日

福岡市教育委員会

教育長　石　橋　正　信

例　　言

1．本書は福岡市教育委員会がホテル建設に伴い、福岡市博多区祇園町２-1,2-2,59,4,5（地番）で発掘調査を実施した博多遺跡群第244次調査の報告である。

2．本書で報告する調査の細目は下表のとおりである

調査番号	遺跡略号	調査対象面積	調査面積	調査期間
2032	ＨＫＴ－244	150.00㎡	145.00㎡	2020年11月9日～2021年1月7日

3．本書に掲載した遺構の写真撮影・実測は調査担当の佐藤一郎（埋蔵文化財課文化財主事）、製図は資料整理補助職員の鳥井幸代が行った。

4．遺物の写真撮影は佐藤、実測は佐藤、技能員の棚町陽子･林田憲三・平田春美、製図は佐藤･鳥井の他、資料整理補助職員の萩尾朱美が行った。

5．遺物の整理は鳥井･資料整理補助職員の甲斐田嘉子が行った。

6．金属製品の保存処理は埋蔵文化財センター上角智希･藤崎彩乃が行った。

7．遺構は２桁の通し番号を用い、種類に応じてSD（溝）、SE（井戸）、SK（土坑）の略号を番号の前につけた。

8．本書の中国陶磁器の分類は「陶磁器分類編」『大宰府条坊跡XV』太宰府市の文化財第49集2000、陶器の名称については「博多出土貿易陶磁分類表」『博多―高速鉄道関係調査(1)―』福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集1984による。

9．本書に関わる図面、写真、遺物など一切の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管される予定である。

10．本書の執筆、編集は佐藤が行った。

本 文 目 次

Ⅰ．はじめに……1
　１．調査に至る経緯 ……1
　２．調査の組織 ……1
Ⅱ．調査地の位置と環境……1
Ⅲ．調査の記録
　１．調査の概要 ……3
　２．遺構と遺物 ……3
　　検出遺構……4
　　出土遺物……5
Ⅳ．小 結 ……7

挿 図 目 次

第 1 図　博多遺跡群発掘区域図（縮尺 1/8000）……2
第 2 図　博多遺跡群第 244 次調査発掘地（縮尺 1/2000）……2
第 3 図　博多遺跡群第 244 次調査遺構配置図・土層図（縮尺 1/125）……4
第 4 図　井戸実測図（縮尺 1/60）……5
第 5 図　その他の遺構実測図（縮尺 1/40･1/20）……6
第 6 図　井戸出土遺物実測図１（縮尺 1/3）……8
第 7 図　井戸出土遺物実測図２（縮尺 1/3）……9
第 8 図　井戸出土遺物実測図３（縮尺 1/3）……10
第 9 図　井戸出土遺物実測図４（縮尺 1/3）……12
第 10 図　土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）……13
第 11 図　柱穴・ピット状遺構出土遺物実測図（縮尺 1/3）……15
第 12 図　瓦磚実測図（縮尺 1/4）……16
第 13 図　石製品実測図（縮尺 1/4）……17

表 目 次

第 1 表　銅銭一覧表 ……17
第 2 表　土師器計測表 ……18

図 版 目 次

図　版 1　1.博多遺跡群第 244 次Ⅱ層上面全景（南西から）
2.博多遺跡群第 244 次Ⅱ層下面全景（西から）
図　版 2　1.SE02 井戸（南から）
2.SE03 井戸（北から）
3.SE03 井戸（東から）
4.SE03 井戸（東から）
5.SE03 井戸（北から）
6.SE04・14 井戸（南から）
図　版 3　1.SE04･14 井戸（北から）
2.SE14 井戸（北から）
3.SK06 土坑（北から）
4.SK19 獣骨出土状況
5.SK22 土坑
図　版 4　1.SX20 土器出土状況（南から）
2.SX20（北から）
3.SX20 上面出土須恵器長頸壷
図　版 5　1.SE03 出土青磁
2.SE03 出土青磁碗
3.SE03 出土石硯

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

2019（令和元）年12月27日、アパホーム株式会社から本市に対して博多区祇園町2-1,2-2,59,4,5（地番）におけるホテル建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会文書（2019-2-1041）が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの博多遺跡群の中央に位置する。埋蔵文化財課がこれを受け、翌2020（令和2）年２月６日に確認調査を行った。トレンチを設定した位置では撹乱が深く及び、遺構面を押さえられなかったが、隣地調査から現地表下0.8m前後で遺構が残存すると判断した。申請者と文化財保護に関する協議をもったが、申請面積744.88㎡の内工事による影響が及ぶ範囲から既調査の25次調査区を除く150.00㎡を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を2020（令和２）年11月２日から翌年１月７日まで行い、整理・報告は2022（令和４）年度に行うこととした。

２．調査の組織

発掘調査委託　アパホーム株式会社　　発掘調査受託　福岡市

発掘調査（令和2年度）　　資料整理（令和4年度）

福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課　福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課

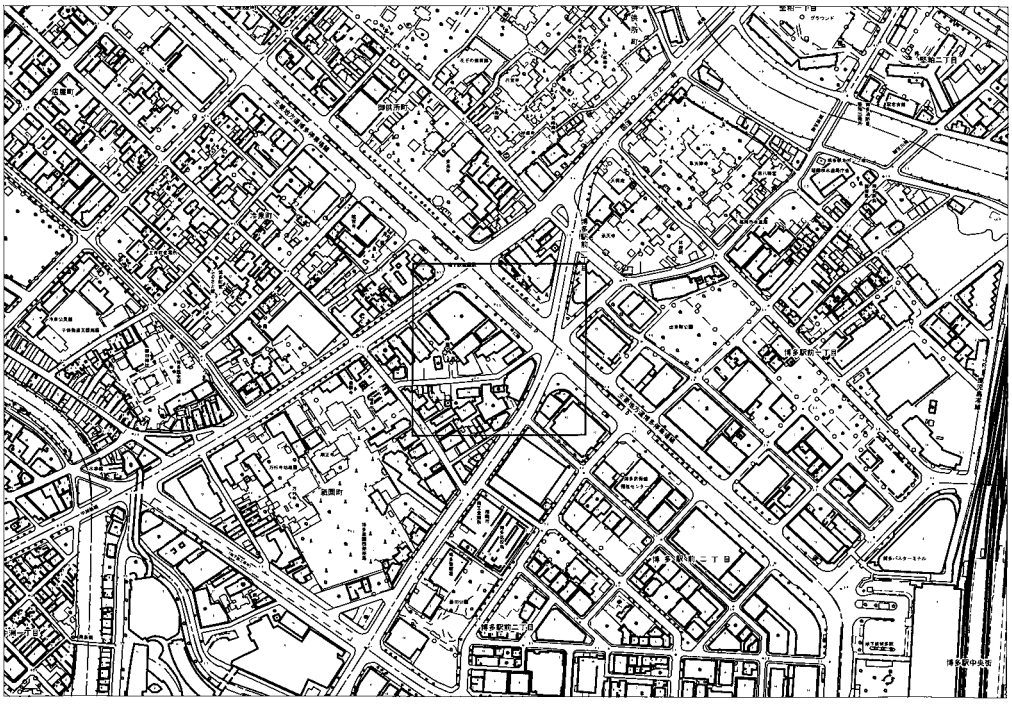
課長	菅波 正人		菅波 正人
調査第1係長	吉武 学	調査第２係長	本田 浩二郎
事前審査担当	田上 勇一郎（主任文化財主事）		森本 幹彦（主任文化財主事）
	山本 晃平（文化財主事）		三浦 悠葵（文化財主事）
発掘調査	佐藤 一郎（主任文化財主事）	資料整理	佐藤 一郎（文化財主事/再任用）
試掘調査	朝岡 俊也（文化財主事 令和元年度）		
庶務	文化財活用部文化財活用課管理調整係		
	松原 加奈枝　内藤 愛		

また、施工の株式会社熊谷組、地元祇園町町内の方々のご協力により、博多遺跡群第244次発掘調査、報告書作成にまで至ることができたことに対し心から謝意を表する。

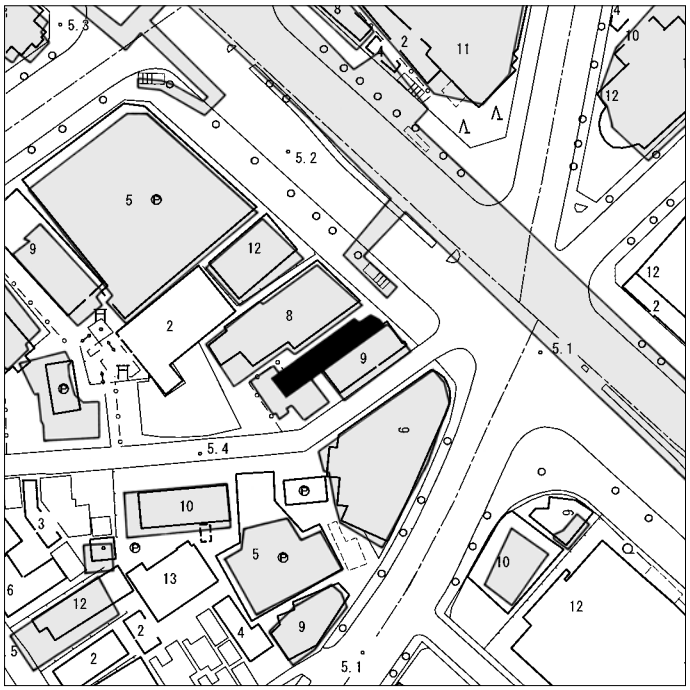
Ⅱ．調査地の位置と環境

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸沿いに形成された古砂丘上に立地する。北が博多湾、西は那珂川、東は石堂川（御笠川下流での通称、近世に付け替えられた）に面する。御笠川は現在の博多駅北の地点から南西に折れ、住吉神社の南側で河口に至り、住吉神社の北側は那珂川河口で博多湾に流れ込んでいた。石堂川付替え以前、御笠川河口部付近は比恵川と呼ばれていた。南は比恵川の旧河道および氾濫原を境界とする。狭義の博多部の領域にほぼ重なる。

調査地は遺跡の南東に位置し、地山の標高は４m前後を測る。周囲では大通りの博多駅築港線、通称大博通りに面していることもあり、ビル建設に伴う発掘調査が数多く行われている。南東に隣接する先述の25次調査では、11世紀前半の土壙墓･12世紀後半の溝･土坑など、さらに南東40mの65次調査では、古墳時代前期の竪穴建物･掘立柱建物･椀型滓や鞴羽口など鍛冶に関する遺物を廃棄した土坑、８世紀の掘立柱建物･井戸、12世紀後半の溝･土坑、13世紀後半の土坑など、北西に隣接する33次調査では中世前期の遺構の他、16世紀の大溝が検出されている。



第１図　博多遺跡群発掘区域図（縮尺 1/8000）



第２図　博多遺跡群第244次調査発掘地（縮尺 1/2000）

Ⅲ．調査の記録

１．調査の概要

建物部分の内、南側の取り壊されたビル部分は記録保存の25次発掘調査が行われ、その後ビル建設により破壊されていることから調査対象から除外した。道路と隣地に面した東側と北側はＨ鋼と横板で土留めし、南側は既調査区と未調査の境、西側は調査対象地西端が法尻となるように勾配を付けて明かり掘削を行い、現地表から－80cmまで鋤取った残土は外部搬出、鋤取りより下は壁面から犬走りを残し勾配を付けて掘削し、残土は既調査区へ置き、以下作業員を投入し人力で遺構･遺物包含層の掘下げを行うこととした。

11月９日に発掘機材を搬入し、借上機材到着、事前に既調査区の実績より遺構面を現地表下－0.8mに設定された鋤取り面を清掃したところ、中世以前の遺構は確認できなかった。本調査地は既調査区調査後に0.5m盛土されており、遺構確認面までその分さらに掘削が必要となった。10･11日にバックホーを入れ表土剥ぎを行い、残土は既調査区に置いた。10日から掘削面の清掃、撹乱浚い、遺構検出を行った。27日に全景写真、その後井戸を中心に個別遺構の検出を行った。12月１～９日にSE02･03･04･14井戸を中心に掘り下げ、写真撮影や実測など記録作成を行った。９･10日には一部に残存する遺物包含層（Ⅱ層）掘り下げの際に、土師器小皿５･椀の埋納遺構SX20を検出し、記録作成を行った。10～17日に井戸の完掘を行い、14～16日にはSK16の検出、記録作成を行った。18日からはⅡ層下面の遺構検出を行い、21日にⅡ層下面全景写真撮影、その後23日まで遺構完掘、記録作成を行った。１月４･５日で南壁面清掃･土層実測を行い、SK06方形竪穴の完掘、記録作成を行った。６日にはSX20下面遺構の記録作成、SK08･SD15出土の獣骨取り上げを行った。７日の機材撤収で調査は終了した。

２．遺構と遺物

検出遺構

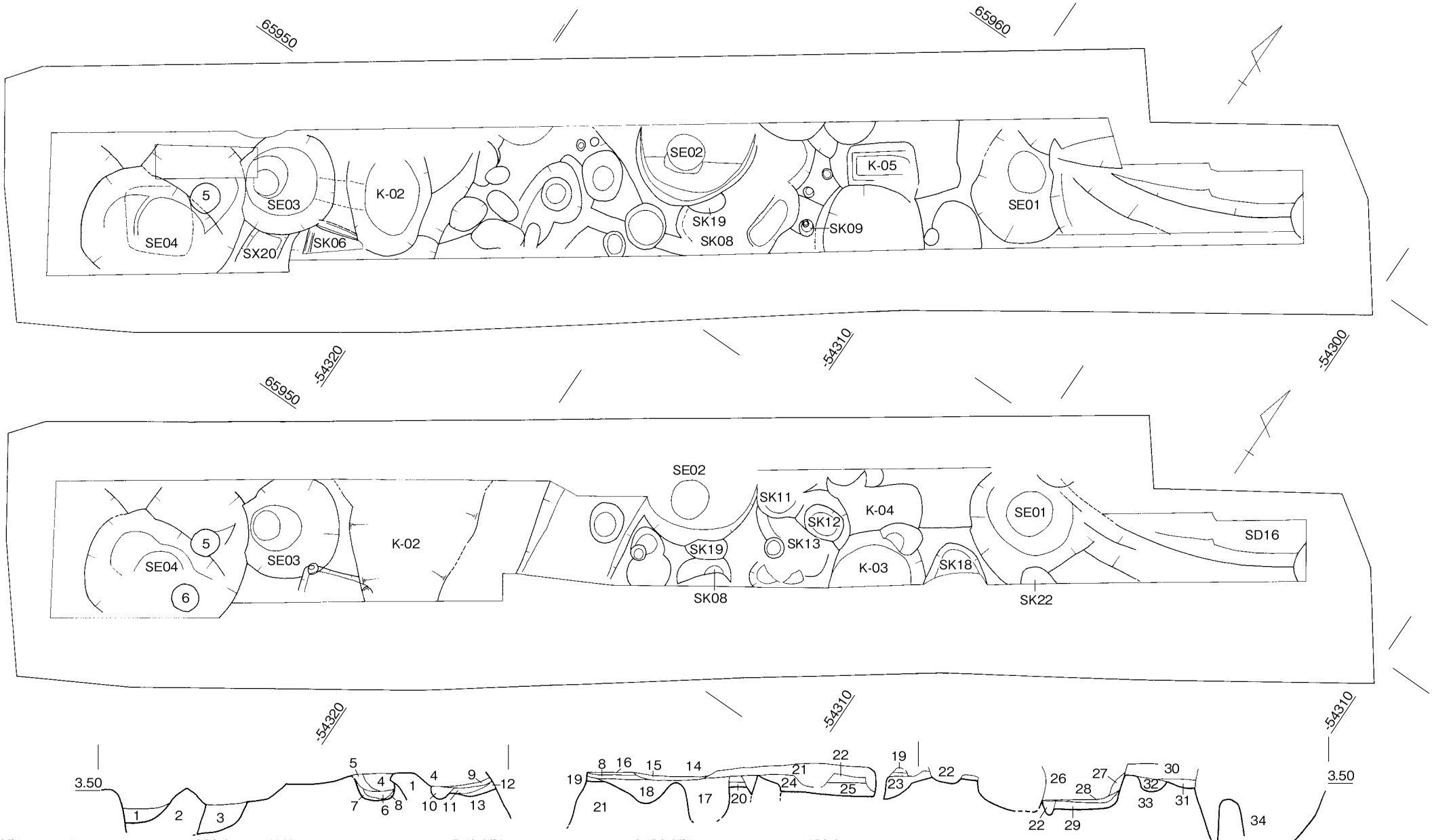
井戸（第４図）

SE02（図版２）調査区中央Ⅰ層上面で検出した。遺構の北半が壁面にかかり、未検出である。掘り方の平面形は径2.8mの不整円形を呈し、深さ2.5mを測る。基底部中央のやや西で径0.9～1.0m、高さ0.7～1.0mの桶側３段の痕跡がみられた。底面の標高1.2mを測る。

SE03（図版２）調査区南側Ⅰ層上面で検出した。掘り方の平面形は径2.4～2.6mの円形を呈し、深さ2.4mを測る。基底部西側で径0.65m、高さ0.6mの桶側２段の痕跡がみられた。底面の標高1.2mを測る。SK06･SX20を切る。

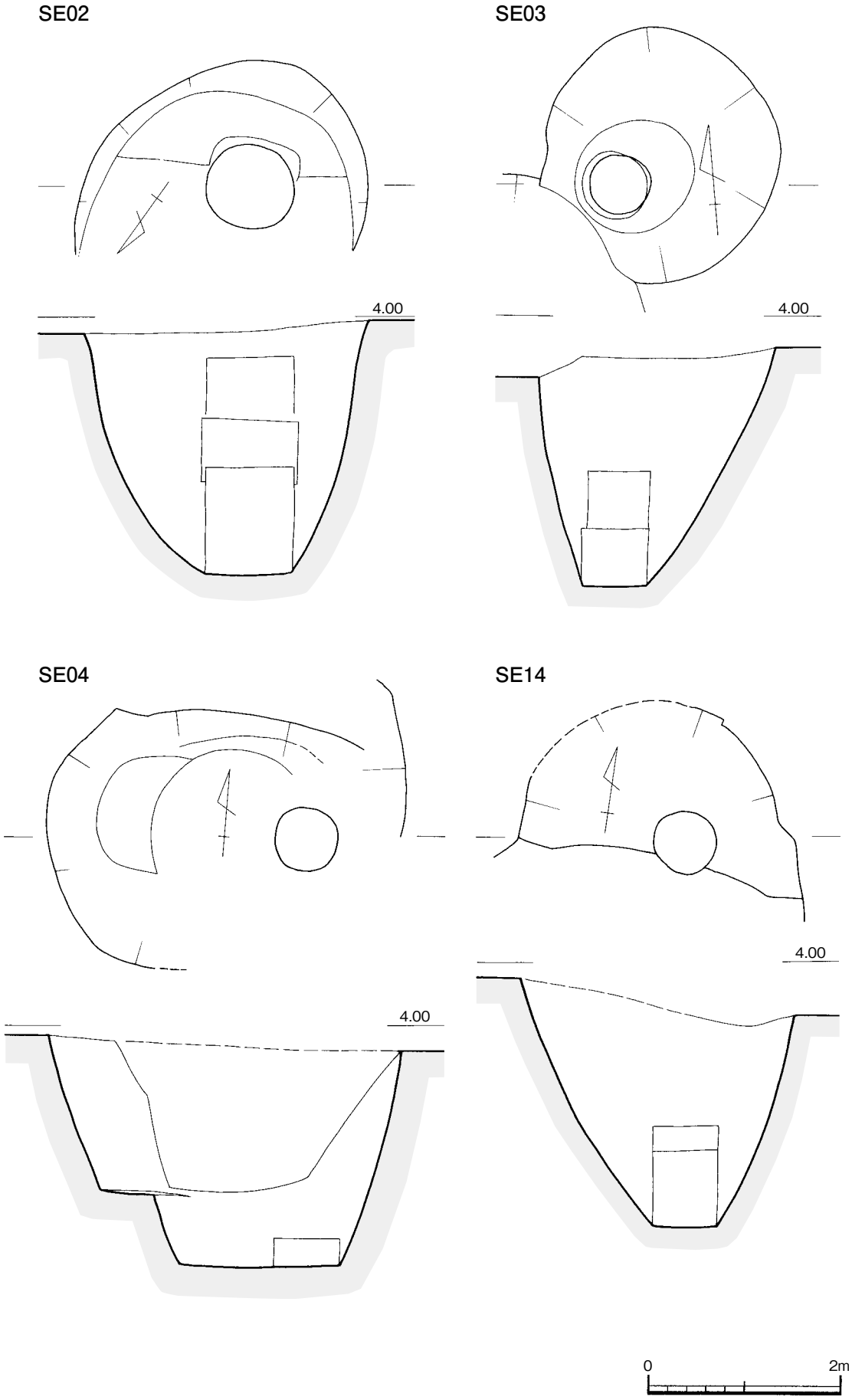
SE04（図版３）調査区南端Ⅰ層上面で検出した。遺構の南半が壁面にかかり、未検出である。掘り方の平面形は径3.7～4.0mの不整円形を呈し、深さ2.4mを測る。基底部東側で径0.7m、高さ0.3mの桶側の痕跡がみられた。底面の標高1.5mを測る。SE14を切る。

SE14（図版３）調査区南端Ⅰ層上面で検出した。遺構の北半が壁面にかかり、未検出である。掘り方の平面形は径2.6mの不整円形を呈し、深さ2.5mを測る。基底部東側で径0.7m、高さ1.0mの桶側の痕跡がみられた。底面の標高1.3mを測る。SE04に切られる。

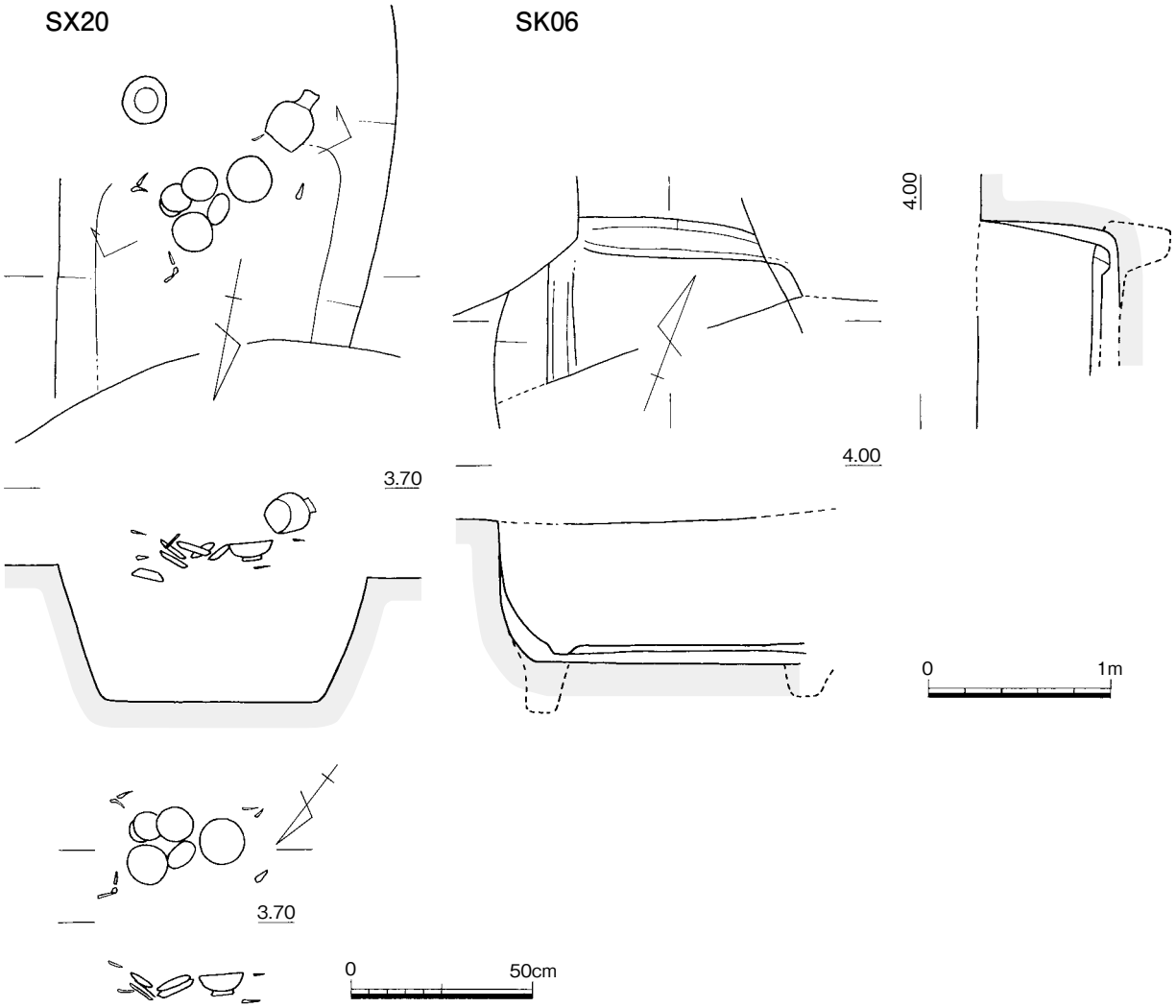


1. 黄灰色砂質土 2.5Y5/2・土 2.5Y6/3
2. にぶい黄色　2.5Y5/3・　砂質土 2.5Y5/1 互層
3. 黄灰色 2.5Y4/1（砂粒　）（溝埋土）
4. 黄灰色砂質土 2.5Y5/1
5. 暗灰色土 N3/
6. 黄灰色砂質土 2.5Y5/1（浅黄色砂 2.5Y7/4 を含む）
7. 浅黄色砂 2.5Y7/4
8. 浅黄色砂 2.5Y7/3（地山）
9. 黒色土 2.5Y2/1（炭化物）
10. 黄褐色砂 2/5Y5/3
11. 黄灰色砂質土 2/5Y5/1 と淡黄色砂 2.5Y8/3（地山）互層
12. 黄灰色砂 2/5Y5/1
13. 淡黄色砂 2.5Y8/3
14. 黄灰色土 2.5Y5/1（炭化物を含む・近世）
15. 黄灰色砂質土 2.5Y6/1
16. 灰黄色砂質土 2.5Y6/1
17. にぶい黄色砂質土 2.5Y6/4
18. にぶい黄色砂 2.5Y6/4
19. 黄灰色砂質土 2.5Y5/1
20. 暗灰黄色砂質土 2.5Y5/3
21. 暗灰黄色砂質土 2.5Y5/2
（黄灰色砂粘質土 2.5Y5/1 縞状に入る）
22. 暗灰黄色砂質土 2.5Y5/2
23. 黄褐色砂質土 2.5Y5/3
24. 黄灰色砂質土 2.5Y4/1
25. にぶい黄色砂 2.5Y6/3
26. 黄灰色土 2.5Y5/1（炭化物を含む）
27. 黄灰色砂 2.5Y5/1
28. 黄灰色粘質土 2.5Y6/1
29. 灰黄色砂 2.5Y7/2
（暗灰黄色土 2.5Y5/2・黄灰色土 2.5Y5/1 を含む）
30. 灰黄色砂質土 2.5Y6/2
（黄褐色砂質土 2.5Y5/1 幅 1cm 縞状に入る）
31. 灰黄色砂 2.5Y6/2
32. 暗灰黄色砂 2.5Y5/2
33. 淡黄色粗砂 2.5Y8/3（地山）
34. 灰黄色 2.5Y5/1 砂質土

第３図　博多遺跡群第244次調査遺構配置図･土層図（縮尺 1/125）



第４図　井戸実測図（縮尺 1/60）



第５図　その他の遺構実測図（縮尺 1/20･1/40）

その他の遺構

SX20土器埋納遺構（第５図） 調査区南側Ⅰ層掘下げの際に検出した。掘下げ時、口縁部が欠けた須恵器長頸壺が横向きの状態で出土した。位置と高さを記録し、５cmほど掘下げると、その下で完形の土師器椀１点･杯６点（内1点は30cmほど南西に外れた位置で出土し、磨滅が著しい）、その周囲に鉄釘が出土した。鉄釘は20×40cmの方形の角に当たる位置で、内３ヶ所では横向きの釘が上下７cmの間隔を取って出土した。釘は20×40cmの木箱を組み立てるために打ち込まれたと想定される。想定される木箱の底面直下のレベルで、幅85cm、深さ35cmの掘り込みを検出した。掘り込みの北側がSE03に切られ、南側は調査区外へ延びる。下部の掘り込みが土壙墓で、上部の土器は供献とも考えられるが、人骨の出土はみられなかった。

SK06方形竪穴（第５図） 調査区南側Ⅰ層上面で検出した。北西隅がSE03に切られ、南側は調査区外へ延びる。最大検出長1.6m、深さ0.7mを測り、壁に沿って幅15～25cm、深さ５～35cmの壁溝がめぐる。

SK19土坑（第３図） 調査区中央で検出した。獣骨（犬）を確認した。

SK22土坑（第３図） 調査区南西Ⅰ層下面で検出した。

SD15溝（第３図） 調査区東端で溝南側の肩と底面の一部を延長７m検出した東西方向の溝で、幅･深さは不明、33次調査で検出された大溝SD004の延長である。

出土遺物

SE02出土遺物（第６図） 井戸枠内から１･温石･砥石（第13図３・４）が出土、他は掘り方出土。

土師器 底部は糸切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。

小皿（１～４） 口径7.7～8.8cm･器高1.2～1.5cm･底径4.9～6.6cmを測る。

杯（５～13） 口径15.1cm、器高2.3～2.9cm･底径7.5～8.8cmを測る。

白磁 皿（14） 口縁部がやや外反し、見込の釉の掻き取りがないⅢ-2である。

SE03出土遺物（第６～８図） 他に石硯（第13図５）が出土しておる。

土師器 小皿（15） 底部は糸切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。口径8.7cm･器高1.2cm･底径6.9cmを測る。

白磁 碗（16～22） 16･17は口縁端部を嘴状にし、内外面とも無文のⅤ-4aで、17は高台端部を欠失する。18は口縁端部を輪花にし、内面は輪花の切れ込みから堆線で分割するⅦ-cで、底部を欠失する。19は口縁部を短く折り曲げ、上端部を水平にする。体部内面に鉄絵を施し、底部は欠失する。20は内底見込みの釉を輪状に掻き取り、体部から口縁部まで直線的に延びるⅧ-2である。21･22も見込みの釉を輪剥ぎする底部片で、外底に墨書を記す。

皿（23・24） 玉縁状口縁に平底のⅢⅡ-2である。

青磁 碗（25～36） 25～27は体部外面無文、内面に蓮華文を片彫りする龍泉窯系青磁Ⅰ－２で、25は底部が欠失する。26は口縁部が欠失し、内底見込みに簡略化した花文を片切り彫りする。27は浅碗で、底部が欠失する。28～36は同安窯系青磁で、外底中央部が円錐状に尖る。29～35は体部内面にヘラによる簡略化した花文と櫛状施文具による「之」字方点綴文を入れ、体部外面に櫛状施文具による条線を入れるⅠ-1b、28は体部外面が無文のⅠ-1aである。36は体部外面にヘラで条線を入れ、体部内面には櫛状施文具による文様を施す。内底見込みの釉を輪状に掻き取るⅢ－２で、底部は平坦である。

皿（37～39） 体部中位で屈曲し、口縁部が外反して延びる。全面施釉の後、底部外面の釉を掻き取る。内底にヘラで簡略化した花文と櫛状施文具で「之」字形点綴文を入れる同安窯系Ⅰ-2bである。

陶器 こね鉢（40） 無釉焼締めのこね鉢Ⅰ類で、口縁端部は内傾し、内面の口縁下を強くなで、突帯をめぐらす。胎土には白色砂粒を多量に含み、灰褐色を呈する。

壷（41～44） 41は長胴の壷の口縁部片で、断面形が縦に長い三角形を呈する。胎土は灰色を呈し、オリーブ黒色の釉が掛かる。42は直立した頸部に断面玉縁状に折り曲げられた口縁部が付く。肩部までが残存し、頸部との境のやや外側に縦耳を貼付する。四耳壷とみられ、体部中位以下は欠失する。胎土には白色砂粒を多量に含み、灰色を呈する。内面は灰褐色の釉が掛かる。43は体部下半以下の残存で、碁笥底状の輪状高台に削り出す。外底は露胎で、灰色の胎土に灰オリーブ色の釉が掛かる。44は長胴の壷の体部下半とみられる。にぶい褐色の胎土に、にぶい黄褐色の釉が掛かる。

甕（45） 無頸の甕で、口縁部は内下方に肥厚し、内端部は直におさめられる。体部は丸みを持ち、下半以下は欠する。胎土には砂粒を多量に含み、灰色を呈する。オリーブ褐色の釉が掛かる。

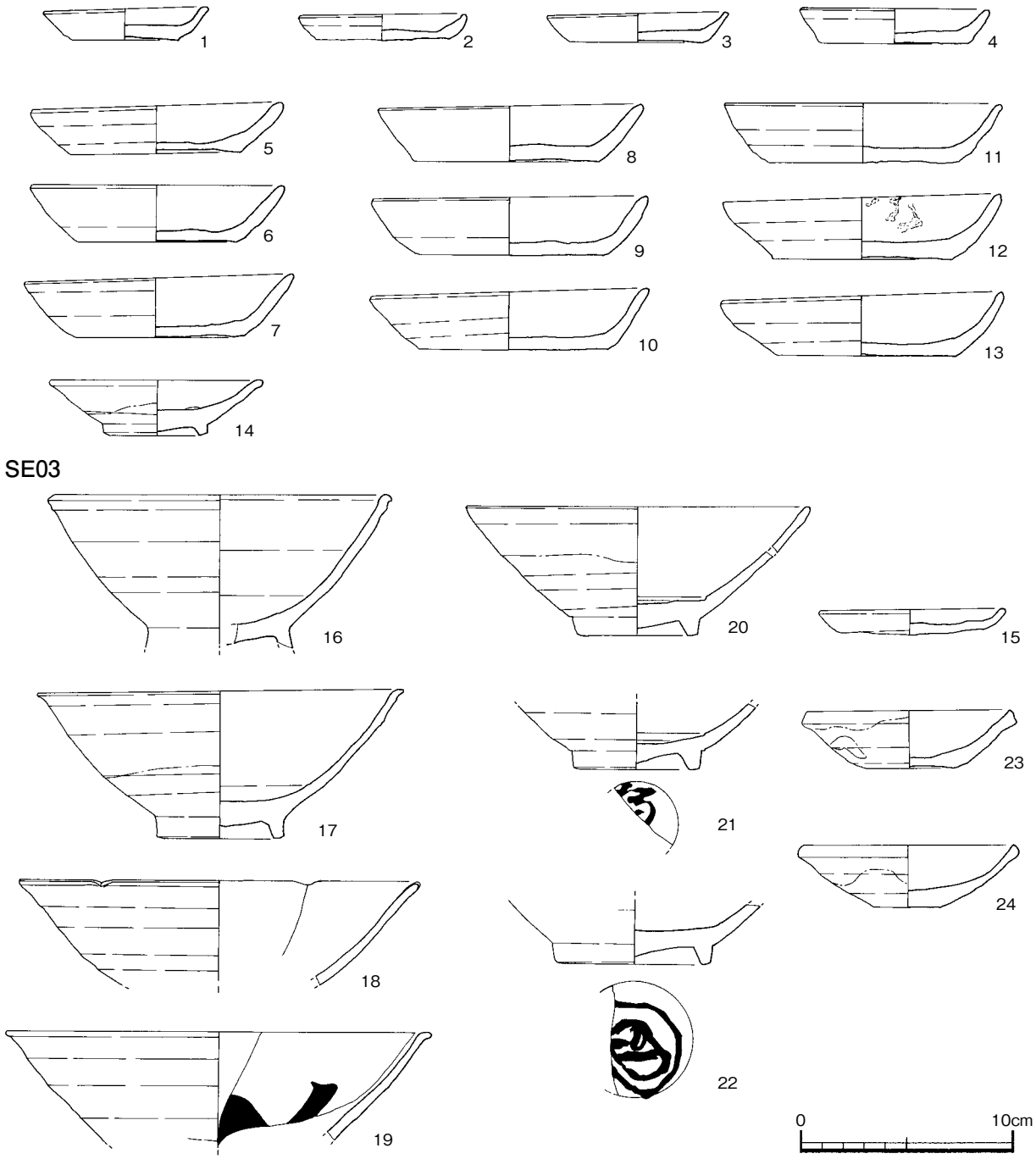
土師器 甕（46） 外反する口縁部の屈曲部内面には明瞭に稜が付く。体部下半以下は欠失し、体部外面上半は縦方向、内面は斜め方向のヘラ削り、口縁部には横ナデを施す。

須恵器 杯（47） 底部と体部の境が明瞭で稜がつく。体部はほぼ直線的にのび、底端部よりやや内側に断面逆台形の高台を貼付する。

SE04出土遺物（第９図）

土師器 小皿（1･2） 底部は糸切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。口径8.0～8.5cm･器高0.8～1.2cm･底径6.6～6.8cmを測る。

SE02



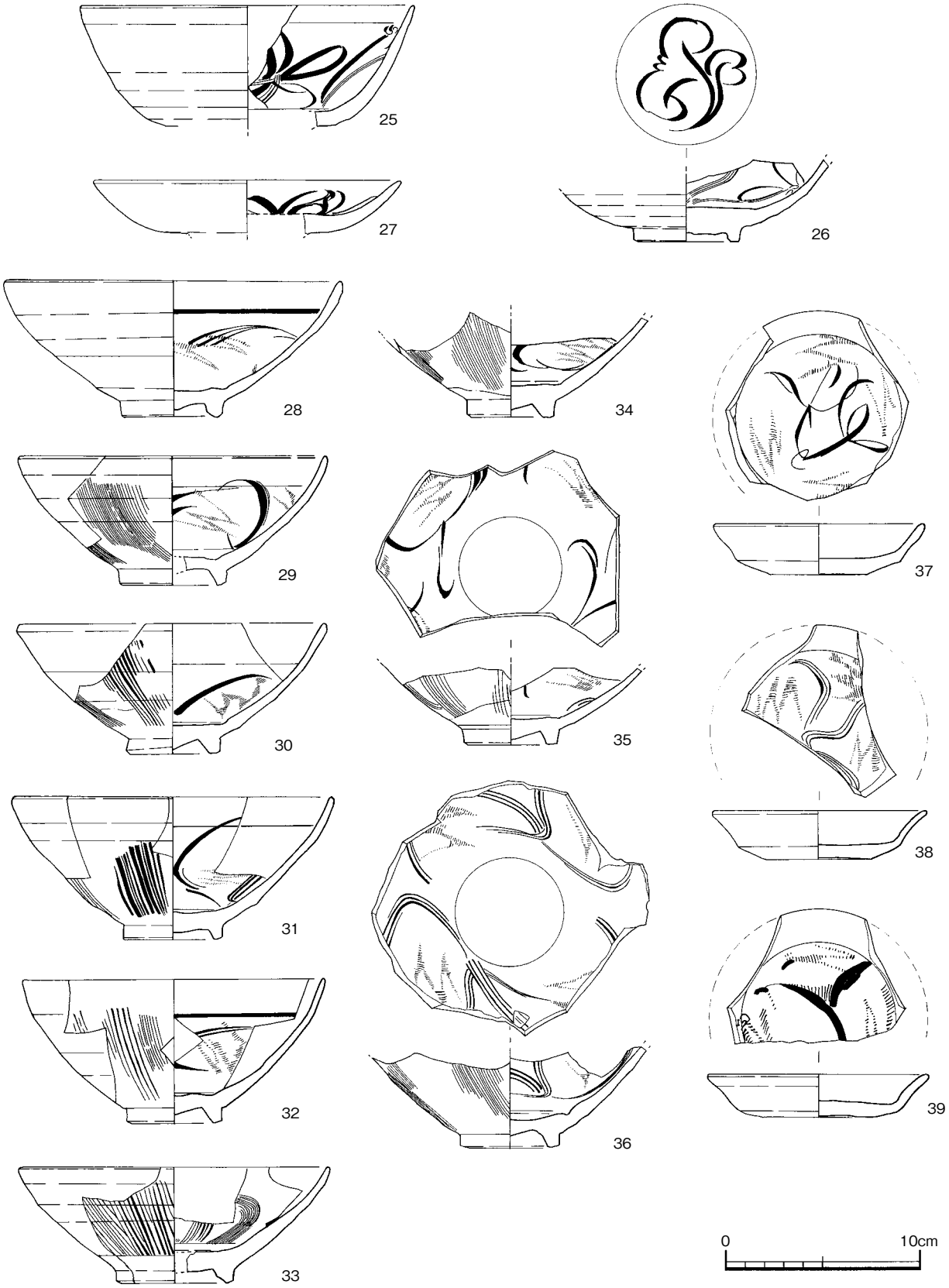
第６図　井戸出土遺物実測図１（縮尺 1/3）

瓦器 小皿（３） 内外面とも横方向にヘラ磨きを行う。

白磁 皿（４～６） ４は内面に簡略化した花文をヘラ描きし、体部の下位に段が付くⅥ-2bで、口縁部が欠失する。５・６は体部中位で屈曲し、全面施釉の後、平底の底部の釉を掻き取る。５は口縁部が欠失し、内底見込みに花卉文をヘラ描きする。６は口縁が直線的に延び、内面見込みに櫛状施文具による「之」字形点綴文を入れる。

水注（13） 口縁部を下方に鋭角に折り曲げる頸部上位の破片である。

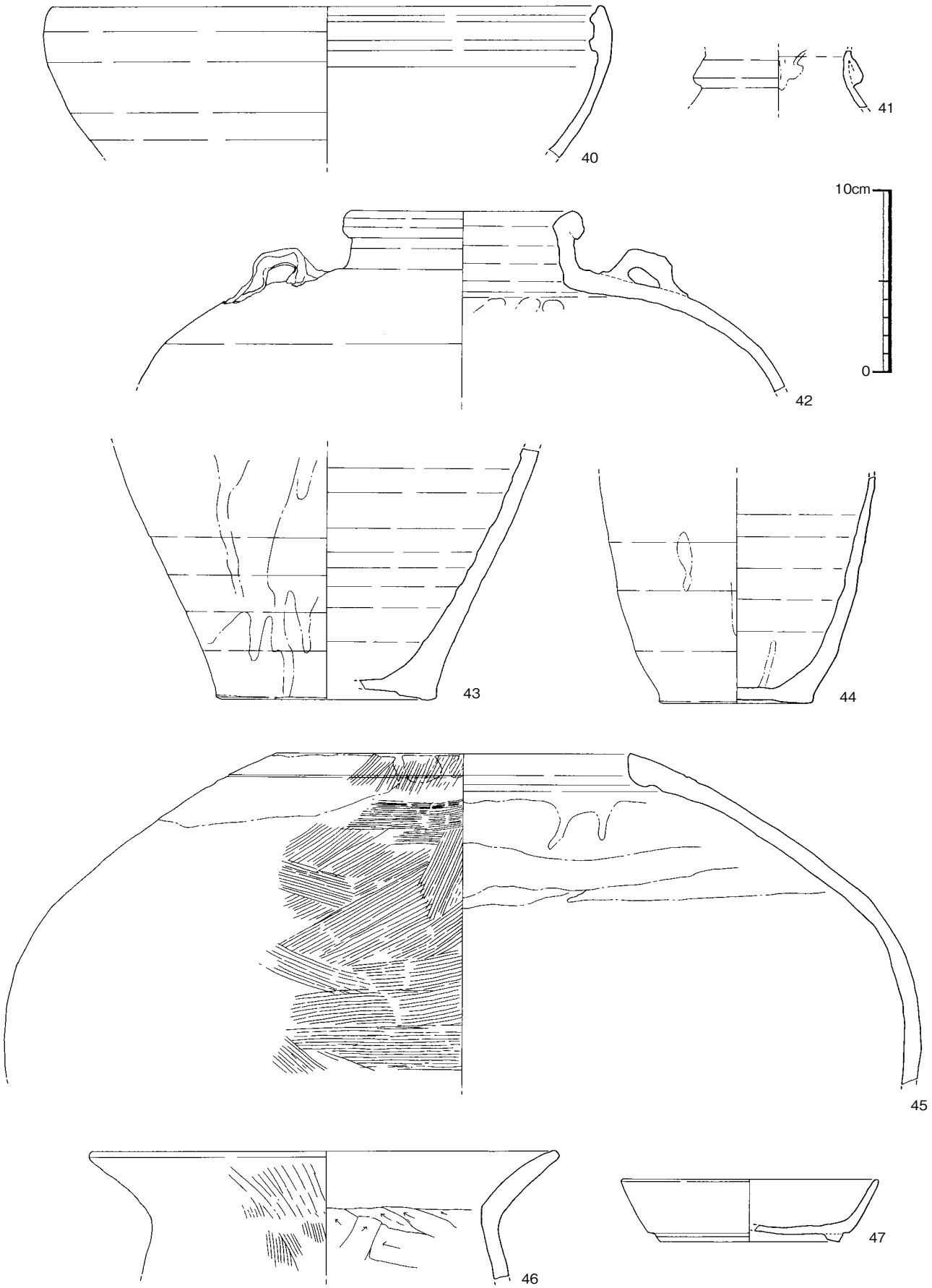
青磁 碗（７・８・10） ７・８は体部外面に蓮弁を削り出す龍泉窯系Ⅱ（旧Ⅰ-５）で、７は鎬蓮弁を削り出し、８は口縁部が欠失し、蓮弁を片彫りする。10は体部外面にヘラで条線を入れ、体部内面に



第７図　井戸出土遺物実測図２（縮尺 1/3）

は櫛状施文具による文様を施す。高台内の刳りが浅く、厚底となる。

小碗（９）体部下位で屈曲し、高台内の刳りは浅い。口縁部が欠失し、体部外面には縦方向の櫛目



第８図　井戸出土遺物実測図３（縮尺 1/3）

を入れる。龍泉窯系Ⅰ-6aか。

皿（11･12） 体部中位の屈曲部から、外反する口縁部が延びる。外底の釉を掻き取る。内底にヘラによる簡略化した花文と櫛状施文具による「之」字形点綴文を入れ、外底の釉を掻き取る同安窯系Ⅰ-2b。

陶器 皿（14） 皿　口縁部が直線的に延び、端部を丸くおさめる。外底は粗く上げ底に削られる。胎土は赤褐色を呈し、灰褐色の釉が掛かる。

壷（15･16） 断面三角形をなす口縁部片で、上端は平坦もしくはやや外傾し、胎土は褐灰色を呈し、黒褐色・オリーブ黒色の釉が掛かり、端部上面の釉を掻き取る。

SE14出土遺物（第９図）

白磁 碗（17） 口縁部を輪花にし、体部内面にヘラを用いて花文を施すⅦ-bである。Ⅴ類の高台をやや低くした形状を取る。

青磁 浅碗（18） 内面に蓮華文を片切り彫りする龍泉窯系碗Ⅰ－２に対応する。底部は欠失する。

皿（19～21） 19･20は体部中位で屈曲し、直線的に口縁部が延びる。内面の体部と底部の境は緩やかで、見込みに櫛状施文具で花文を描く。全面施釉の後、外底の釉を掻き取る龍泉窯系Ⅰ－２である。21は同安窯系Ⅰ-2bである。

青白磁 皿（22） 口縁部口禿、体部内面中位に雷文帯、下位に花弁を型押しする。底部は欠失する。

合子（23） 型作りで体部外面に花弁を施す合子の身で、蓋受け部分は露胎となっている。

SK01出土遺物（第10図）

陶器 盤（１） 口縁部は欠失し、体部下半から底部の周縁部にかけて残存し、内面には鉄絵で花卉文を施す。にぶい赤褐色～褐灰色の釉を内面と体部部外面に掛け、釉下に化粧土掛けする。

こね鉢（２） 口縁部欠失、残存範囲では無釉で、胎土には白色砂粒を多量に含み、赤灰色を呈する。

SK05出土遺物（第10図）

白磁 碗（３） 口縁部が直線的に延び、端部を嘴状におさめ、内外面無文のⅤ-2aで、底部は欠失。

皿（４） 口縁部がやや外反し、見込の釉の掻き取りはないⅢ－２で、高台内に墨書「方」を記す。

SK06出土遺物（第10図）

土師器 杯（５･６） 底部は糸切り離し、体部外面から内底まで回転横ナデされる。口径12.0cm･器高2.5～2.9cm･底径8.4～7.6cmを測る。

青磁 碗（７） 口縁部が内に折れる鉄鉢形の龍泉窯系束口碗の口縁部片である。

SK08出土遺物（第10図）

土師器 底部は糸切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。

小皿（８～10） 口径8.0～9.8cm･器高0.8～1.1cm･底径6.1～7.9cmを測る。

杯（11） 口径12.4cm･器高2.6cm･底径9.1cmを測る。

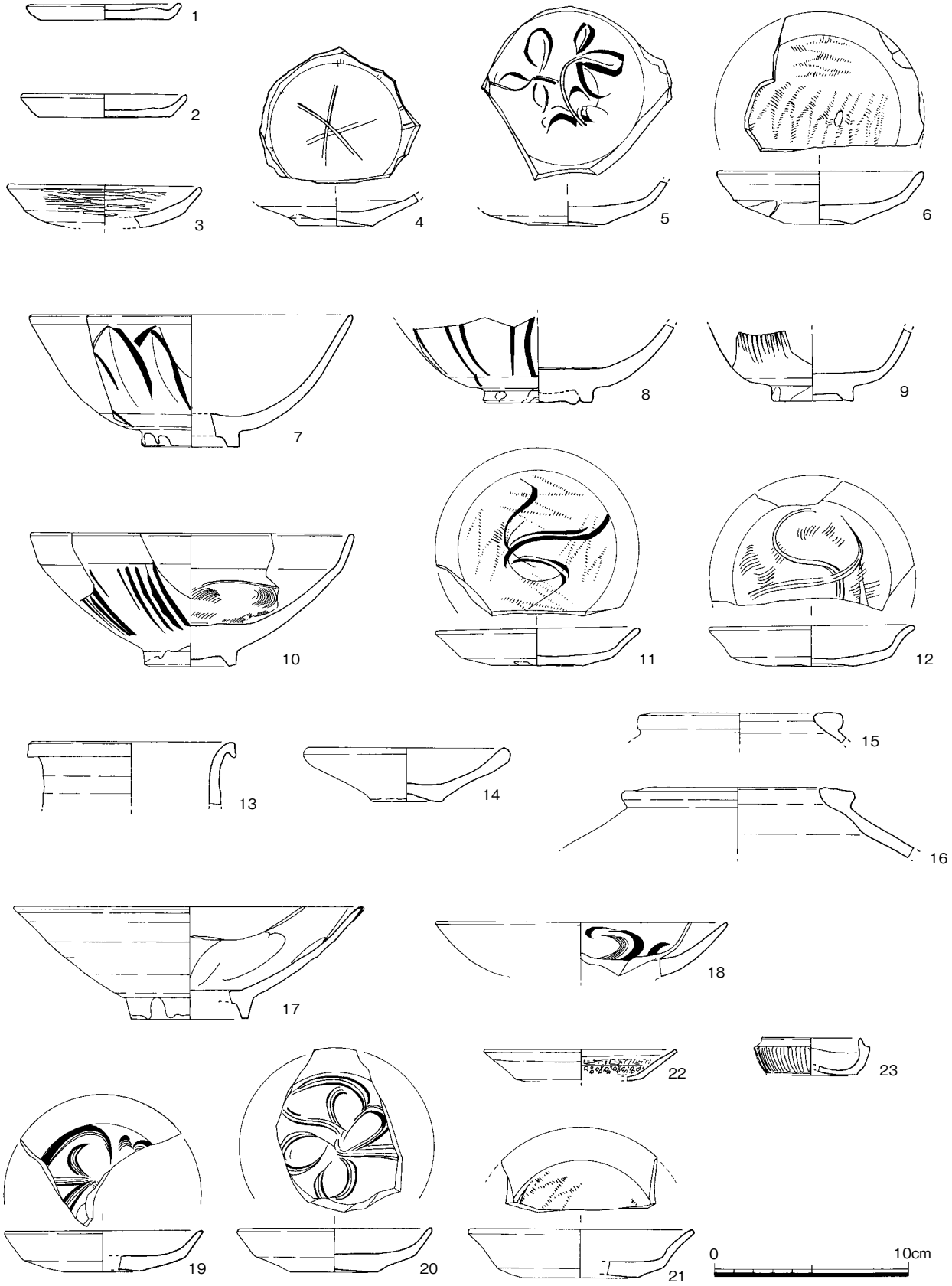
SX20出土遺物（第10図）

土師器 杯（12～17） 底部はヘラ切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。口径9.8～11.9cm･器高2.1～2.7cm･底径6.9～7.8cmを測る。

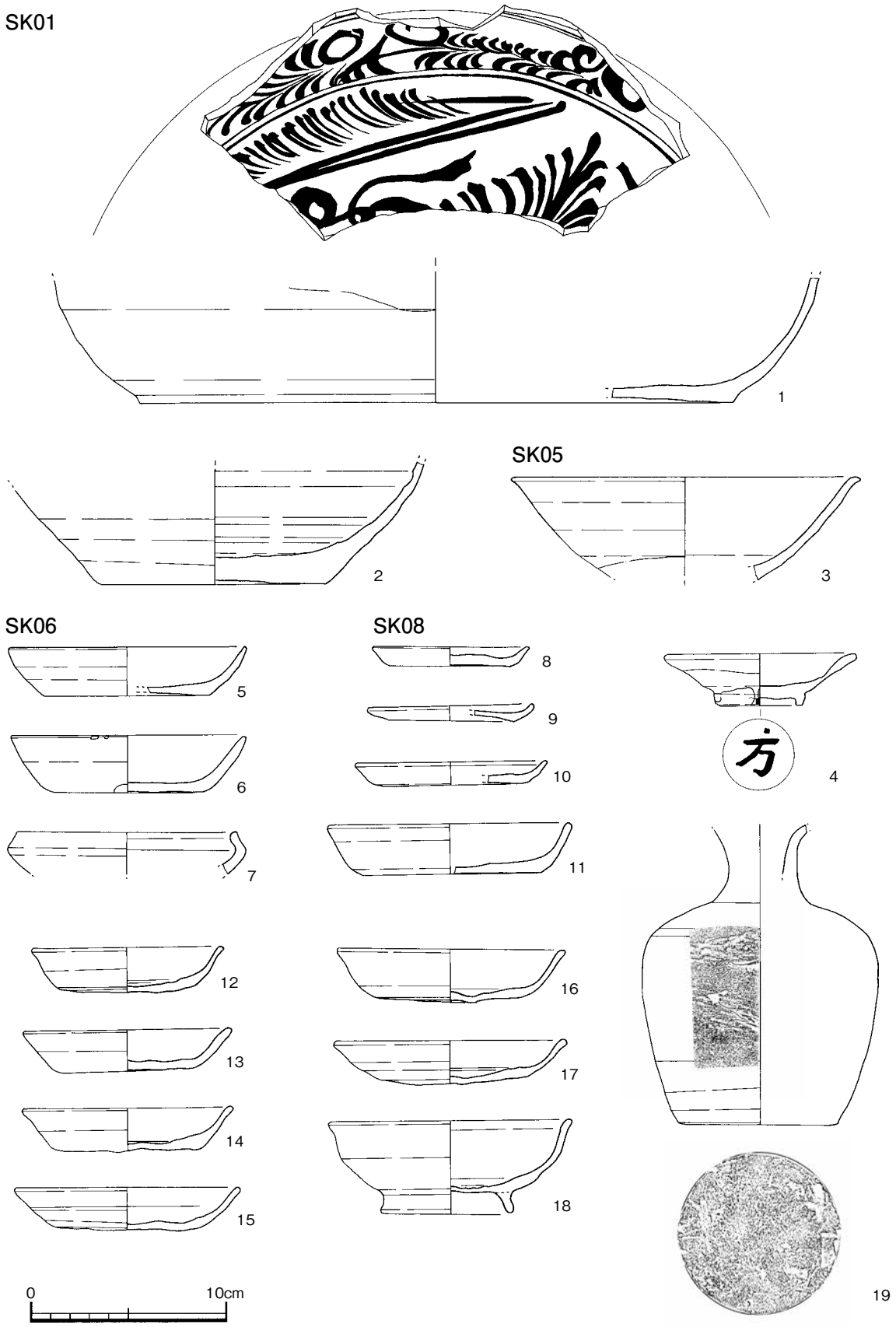
椀（18） 丸みを持った体部から口縁部が外反し、体部回転横ナデ、内底ナデ、底部に外に開く放題を貼り付ける。口径12.4cm･器高4.8cm･高台径6.3cmを測る。

須恵器 長頸壷（19） 肩の張った体部から長い頸部が延び、口縁部へ向け開く。口縁端部は欠失する。底部は平底で未調整、頸部から外面は肩部にかけて横ナデ、体部中位は横ナデで部分的に叩き痕が残り、体部下位は横方向にヘラ削りされる。残存高15.4cm･体部最大径12.0cm･底径8.2cmを測る。胎土には粗い砂粒を含み、紫灰色を呈する。

SE04



第９図　井戸出土遺物実測図４（縮尺 1/3）



第10図　土坑出土遺物実測図（縮尺 1/3）

Pit05出土遺物（第11図） SE04井戸枠上層からの出土遺物である。

土師器 杯（１～４） 底部は糸切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。口径12.8～13.9cm･器高2.3～2.7cm･底径8.5～9.4cmを測る。

Pit06出土遺物（第11図） SE14井戸枠上層からの出土遺物である。

土師器 底部は糸切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。

小皿（５～10） 口径8.3～9.1cm･器高1.0～1.5cm･底径6.3～7.4cmを測る。

杯（11･12） 口径12.4～12.5cm･器高2.4～2.6cm･底径8.7～8.4cmを測る。

白磁 皿（13･14） 体部中位で屈曲し、直線的に延びる。内底見込みは平坦で、蓮華、荷葉を印文で施すⅧ-2である。見込みの凹凸により印文は不鮮明である。

青磁 碗（15･16） 口縁部が欠失する龍泉窯系の碗で、15は蓮弁をヘラで削り出す。16は不透明な釉が厚く掛かり、蓮弁の削り出しは不明瞭である。内面の体部と底部の境に段、圏線は見られない。

黒釉陶器 碗（17） 直線的に外上方に延びる体部上位で屈曲し、口縁部が直に外反する。内底部は平坦で、高台は浅く削り出され、畳付は内側が接地、外側が跳ね上がる。

陶器 皿（18･19） 口縁部が直線的に延び、端部は外傾する。外底は渦巻状に粗く削られる。

青白磁 皿（20） 器周の残存1/4からの復元口径10.2cm･器高1.6cm･底径7.7cmを測り、１～６の土師器小皿に近似する法量を取る。

土製人物像（21） 素焼きの磨喝楽右下部片で、衣服の裾から沓先を出す。胎土は精良で、橙色を呈する。彩色や下塗りの胡粉はみられない。

SK21出土遺物（第11図）

陶器 小口瓶（22） 口縁部から肩部にかけて欠失する。長胴の瓶で、内面には鋭くロクロ目が残る。

包含層出土遺物（第11図）

青白磁 合子 蓋（23） 型造りにより体部に花弁、天井部に花卉文を表す。

須恵器 杯（24） 無高台の杯で、底部はヘラ切り離しの後ナデ、体部は横ナデ、内底はナデを施す。

坩（25） 屈曲する肩部に口縁部が短く直立する。底部は欠失し、口径10.8cm･肩部径12.0cmを測る。

排土出土遺物（第11図）

土師器 小皿（26） 底部は糸切り離し、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。口径8.9cm･器高1.1cm･底径7.6cmを測る。

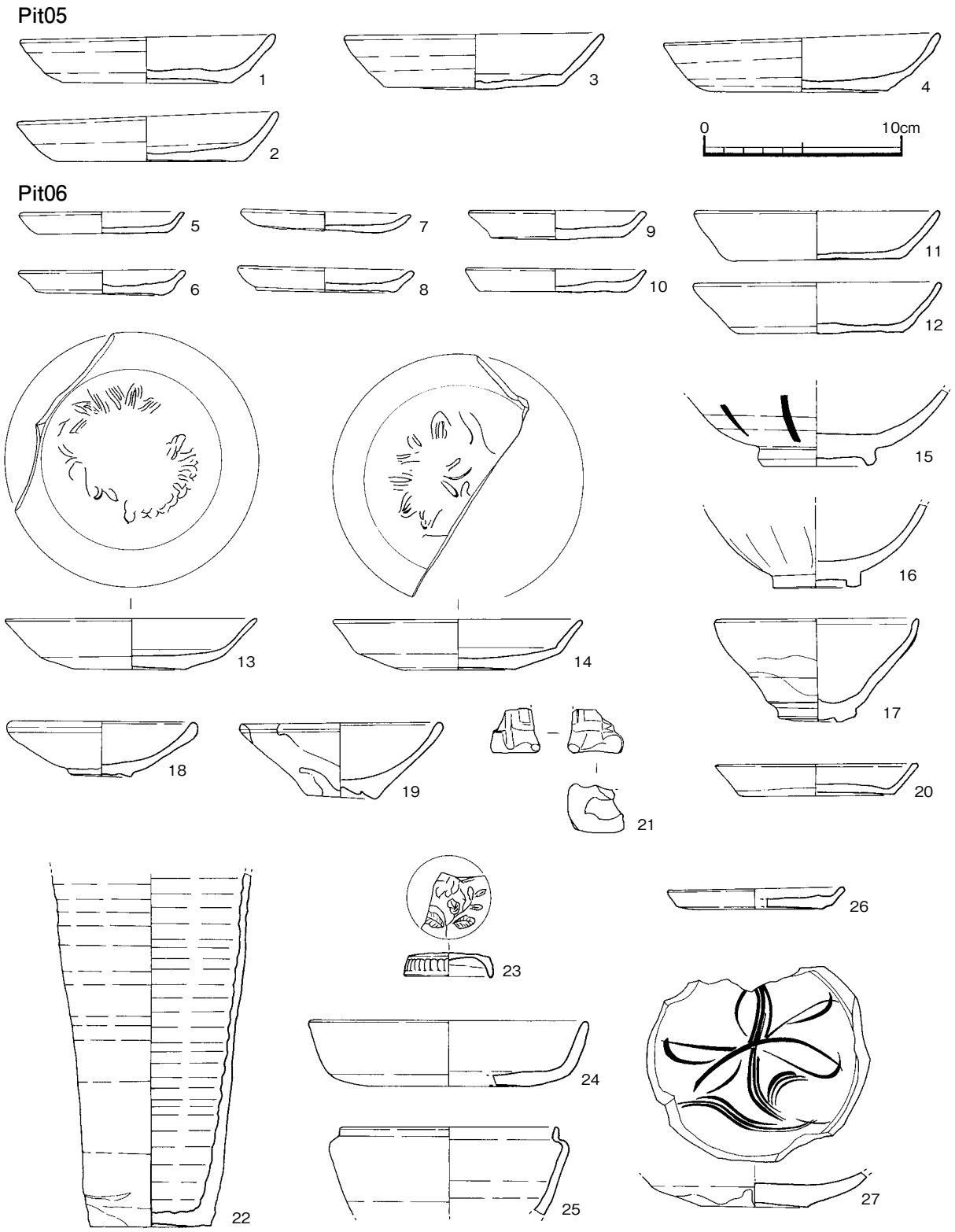
青磁 皿（27） 龍泉窯系皿で、体部中位で屈曲し口縁部は欠失する。内面の体部と底部の境は緩やかで、見込みにヘラで花文を描く。底部付近まで施釉される。

瓦磚･石製品（第12図）

丸瓦（１･３） 玉縁付丸瓦で、凹面に布目が残る。１の凸面は残存範囲では横ナデ。SE02出土。３の凸面は玉縁付近が横ナデ、その他の部位は縄目が残る。側面の内側が面取りされる。Pit05出土。

平瓦（２･４～６） ２･４･６は中国系で、粘土板桶巻作りによる厚さ１cm前後の薄手の平瓦で、堅緻に焼成されている。凹面は布目、凸面は縄目の叩きの後、粗く縦方向、側縁付近は横方向にナデ消している。側面は内面から1/3のまで刃物を入れ、分割の際の破面が残る。断面形はほぼ直角である。２－SE02、４－SK01、６－Pit03出土。５は凹面が布目、凸面はナデ、側面は内面から1/4のまで刃物を入れ、分割の際の破面が残る。SK01出土。

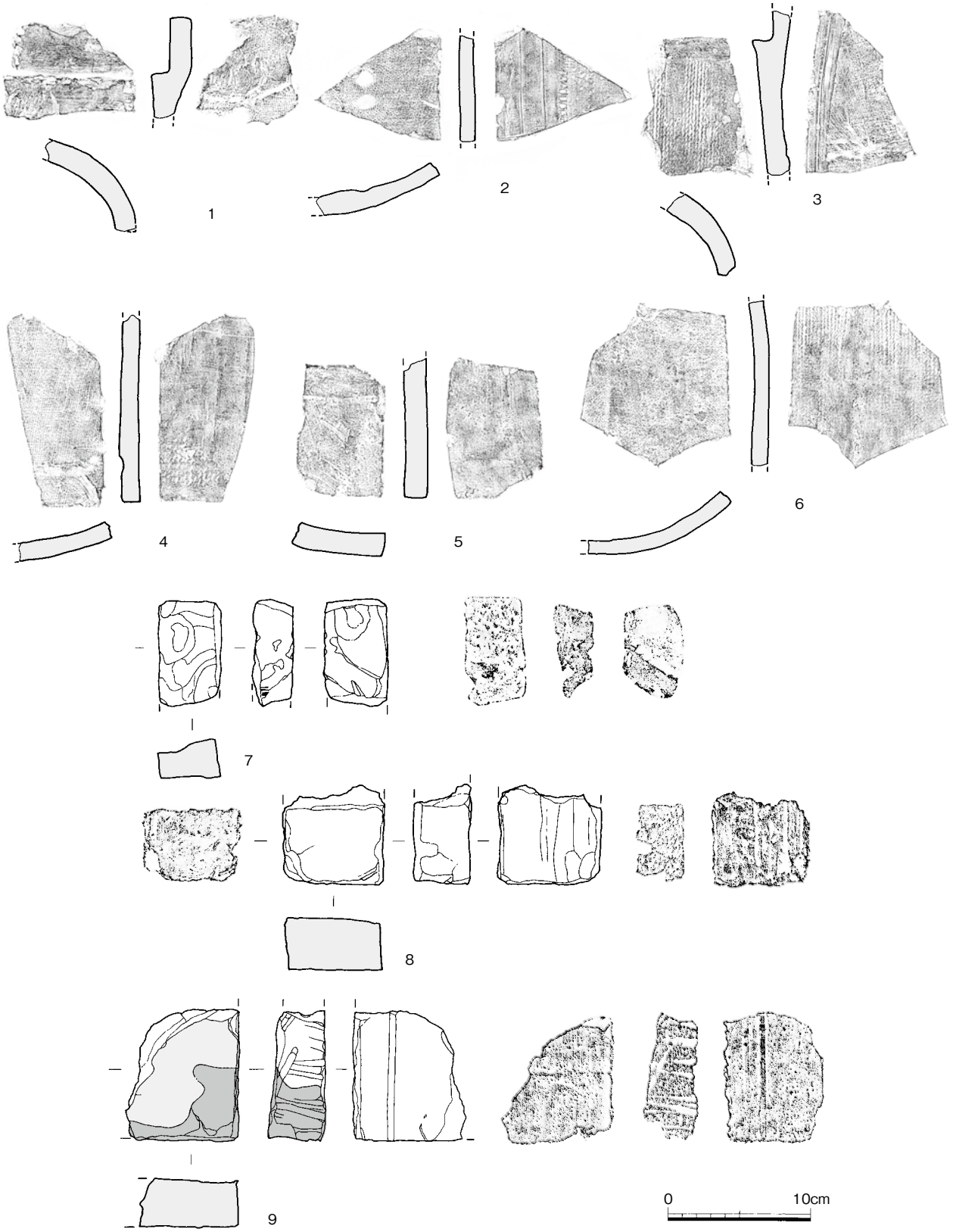
磚（７～９） ７は両端が欠失し、残存する長辺の長さ7.3cm･短辺の全長4.2cm･残存する厚さ3.7cmを測る。SK06出土。８は一端が欠失し、残存する長辺の長さ7.0cm･短辺の全長7.0cm･厚さ3.5cmを測る。SK07出土。９は残存する長辺の長さ9.2cm･短辺の長さ7.8cm･厚さ3.3cmを測る。SK19出土。



第11図　柱穴･ピット状遺構出土遺物実測図（縮尺 1/3）

石製品（第13図）

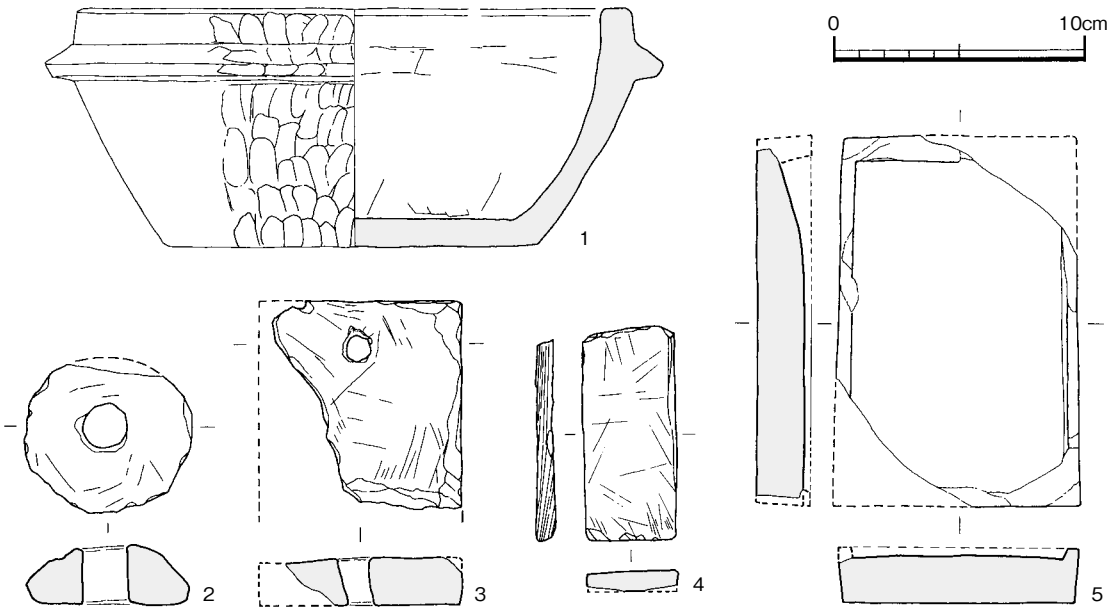
滑石製石鍋（１） 復元口径22.0cm･器高9.4cm･復元底径14.6cmを測る。直立する口縁部から1.4cm下方に厚さ1.0cm･高さ1.5cmの断面台形の鍔をめぐらせる。体部は底部から内湾気味に外上方に延びる。外面はノミによる削痕が残る。内面は丁寧に研磨されるが、体部の底部よりの部分にノミの痕が残る。外面の体部下半から底部にかけて煤が付着している。Pit06出土。



第12図　瓦磚実測図（縮尺 1/4）

石錘（2） 滑石製石鍋片の再加工品で、径7.5cm･高さ2.4cmの半球の中心に径1.8cmの孔を穿つ。試掘トレンチ出土。

温石（3） 石鍋の再加工品で、厚さ1.9cmの札状石板である。長辺･短辺とも一端が欠失し、残存長はそれぞれ8.2cm･7.4cmを測る。上端から２cmの位置に径９mmの孔をやや斜めに穿つ。孔を短辺の



第13図　石製品実測図（縮尺 1/4）

中央とした場合、短辺の長さは8cmに復元できる。SE02井戸枠内出土。

砥石（4） 長辺の一端が欠失し残存長9.5cm、短辺3.7cm、厚さ0.6cmを測る。石材は頁岩で、にぶい橙色を呈する。SE02井戸枠内出土。

石硯（5） 長辺14.4cm、短辺9.5cm、高さ2.2cm、厚さ1.9cmを測る方形硯で、硯尾側に向かって僅かに幅が広くなる。また、表面が裏面より幅広となり、上に僅かに開く。縁は右側辺1/3のみ完存し、縁の基部は硯尾を除いた三方の残存部分で確認されたが、硯尾に内側から縁を削り出した短辺と平行な削痕がみられ、縁は四方にめぐらされていたとみられる。破面を除く残存部位は平滑に研磨されているが、裏面は部分的に成形時のノミ痕が残る。石材は頁岩で、赤灰色を呈する。SE03出土、共伴遺物から遺構の時期は12世紀後半である。

金属製品　遺構や撹乱から銅銭が出土している。第１表に示す。

登録番号	遺 構	銭 名	初鋳年	備 考	登録番号	遺 構	銭 名	初鋳年	備 考
1	SE02	元豊通寳	1078	井戸枠内行書	7	SE03	不明		複数枚
2		元豊通寳	1078	行 書	4	SK01	建炎通寳	1127	篆 書
5		不明			11	K-02	寛□通□		1/2 残

第１表　銅銭一覧表

Ⅳ．小　結

遺構の時期　244次調査で、一定数の土師器、陶磁器が出土した遺構の時期は、以下の通りである。

11世紀前半　SX20　　12世紀後半　SE03

13世紀前半　SE04 Pit05　　13世紀後半　SE02 SK06 SK08 Pit06

遺構が万遍なく分布していたのは13世紀後半である。博多遺跡群は中世前半において大陸からの物資の門戸として、宋商人が居留し、交易船から積み下ろされた物資の一大集散地とされる。遺構や包含層から出土する膨大な量の宋代の陶磁器は、博多が交易の拠点であった物的証拠とされる。宋商たちが構えた店舗や倉庫について明確にそれと断定できる遺構は検出されていないが、これまでの発掘

調査では陶磁器が大量に廃棄された遺構が多く検出されている。荷下ろしした積荷を開梱した際に、梱包に用いた緩衝材が不十分であったためか、輸送の過程で破損した品を取り除き廃棄した事例の他、火災による破損品を廃棄した事例がある。

SE03井戸出土遺物と破損品の廃棄　SE03井戸からは同一規格の同安窯系青磁碗と皿が複数出土した。破損品の廃棄であろうが、それらは住人の什器としてではなく、倉庫に保管、店頭に陳列された商品、もしくは陸揚げされた積荷から取り除かれた破損品が廃棄されたものであろう。12世紀後半の破損品を大量廃棄した事例は224次調査地から北80mに位置する祇園駅出入口G区の調査１号土坑（井戸の井戸枠内で底面の標高1.8m）があり、大量の陶磁器が火災によって破損し廃棄されていた。ほぼ完形に復元されたものも多く、龍泉窯系青磁碗･皿、同安窯系青磁皿を主体に、陶器などが出土している。底面の標高から逆算すれば検出面の標高は4.5m前後と推定される。他に博多遺跡群での陶磁器の大量廃棄の事例を挙げると、

56次調査SK0281（12世紀前半 検出面標高2.5m）79次調査1872号（12世紀前半 検出面標高3.4m）

224次調査SK07（12世紀中頃 検出面標高3.6m）244次調査SE03（12世紀後半 検出面標高3.8m）

遺構の時期が下がるにつれて検出面の標高が高くなる東に位置が移る傾向にある。

SX20土器埋納遺構　古代末の遺構ではSX20を検出した。南東に隣接する25次調査で同時期の土壙墓SK05が検出されている。長辺2.35m･短辺1.35m･深さ0.5mを測る長方形の掘り方で、北側底面の頭骨の位置周辺で土師器杯６点が出土した。底部はヘラ切り離し（報告には糸切り離しとあるが、実測図に付けられた外底部の拓本を見る限り、底部の切り離しはヘラによるものである）、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底に板状圧痕が残る。口径9.9～11.6cm･器高2.3～2.5cm･底径6.0～8.5cmと244次SX20出土土師器杯に近い値を取り、杯の点数が６点であることが共通する。本来は金属製の密教法具六器を簡略化、或いは供献品として土師器杯に転化したものであろうか。244次SX20出土の土師器杯６点に伴って出土した土師器小椀、上面で出土した須恵器長頸壷についても、閼伽杯、華瓶に相当する法具としての役割を担っていたのかもしれない。

博多―高速鉄道関係（1）―福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集1984　博多Ⅴ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第120集 1985
博多34―博多遺跡群第56次発掘調査報告―福岡市埋蔵文化財調査報告書第326集1993
博多181―博多遺跡群第224次発掘調査報告―福岡市埋蔵文化財調査報告書第1448集2022

挿図番号	No.	出土遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	挿図番号	No.	出土遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	挿図番号	No.	出土遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
第６図	1	SE02	小皿	7.7	1.5	5.0	第９図	1	SE03	小皿	8.0	0.8	6.6	第10図	17			11.8	2.2	7.4
	2			7.8	1.2	6.2		2			8.6	1.3	6.8	第11図	1	Pit05	杯	12.8	2.3	8.2
	3			8.2	1.4	6.0	第10図	5	SK06	杯	12.0	2.5	8.4		2			13.1	2.3	8.4
	4			8.8	1.5	6.6		6			12.0	2.9	7.6		3			13.0	2.9	9.0
	5		杯	11.8	2.3	7.8		8	SK08	小皿	8.0	1.0	6.2		4			13.9	2.6	8.9
	6			11.8	2.7	7.5		9			8.5	0.8	6.4		5	Pit06	小皿	8.3	1.1	6.4
	7			12.5	2.8	7.8		10			9.7	1.2	7.0		6			8.4	1.3	6.4
	8			12.5	2.6	8.6		11		杯	12.4	2.6	9.1		7			8.5	1.0	6.3
	9			12.8	2.7	8.8		12	SX20	杯	9.8	2.3	6.6		8			8.8	1.2	6.7
	10			13.0	2.7	8.8		13			10.5	2.1	6.9		9			8.9	1.5	6.8
	11			13.0	2.8	9.0		14			10.6	2.2	7.2		10			9.2	1.1	7.4
	12			13.0	2.9	8.3		15			11.4	2.1	7.7		11		杯	12.4	2.4	8.6
	13			13.3	2.8	8.3		16			11.5	2.7	7.8		12			12.6	2.6	8.4
	15	SE03	小皿	8.7	1.2	6.9	土師器小皿・杯以外、時期毎の法量に顕著な増減がない器種は除く。													

第２表　土師器計測表

2. 博多遺跡群第 244 次Ⅱ層下面全景（西から）

1. 博多遺跡群第 244 次Ⅱ層上面全景（南西から）

図版 1

図版 2

1.SE02 井戸（南から）

2.SE03 井戸（北から）

3.SE03 井戸（東から）

4.SE03 井戸（東から）

5.SE03･14 井戸（北から）

6.SE04･14 井戸（南から）

1. SE04･14 井戸（北から）

2.SE14 井戸（北から）

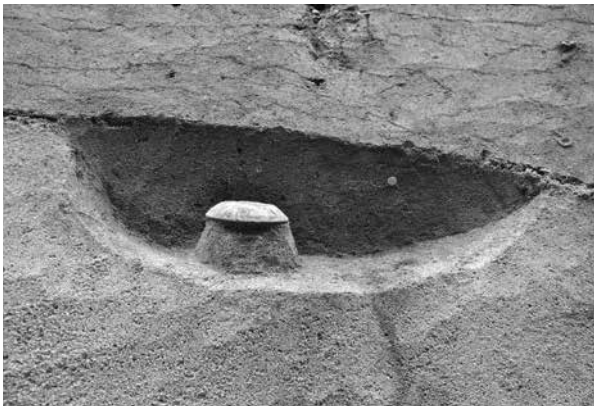
3. SK06 土坑（北から）

4.SK19 獣骨出土状況

5.SK22 土坑

図版 4

1. SX20 土器出土状況（南から）



2. SX20（北から）

3.SX20 上面出土須恵器長頸壷

1.SE03 出土青磁

2.SE03 出土青磁碗

3.SE03 出土石硯

報　告　書　抄　録

ふりがな	はかた 195
書名	博多 195
副書名	博多遺跡群第 244 次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1483 集
編著者名	佐藤一郎
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810-8621　福岡県福岡市中央区天神 1-8-1　　TEL 092-711-4667
発行年月日	2023 年（令和５年）３月 23 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
はかたいせきぐん 博多遺跡群	ふくおかしはかたく 福岡市博多区 ぎおんまち 祇園町 2-1, 2-2,59,4,5（地番）	40132	121	33° 35'36"	130° 24'54"	20201109 ～ 20200107	145㎡	記録保存

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
博多遺跡群	集落	古墳・古代・中世	井戸・土坑	土師器・陶磁器・ 石製品・金属製品	

要　約	博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地している。調査地は博多遺跡群の南東寄りに位置する。GL-1.3mの包含層（暗褐色砂、８世紀頃）上面と下面の砂丘砂で遺構検出を行った。包含層上面では、溝１条、12世紀後半～13世紀前半の井戸５基、土坑10基、柱穴･ピット状遺構を検出した。溝は調査区東で南側の肩と底面の一部を検出、33次調査で検出された16世紀の大溝SD004の延長とみられる。また、上面では断片的ではあるが、黒色砂（Ⅰ層、平安中期の風成砂）層が確認された。包含層下面では11世紀前半の土壙、その上面で土師器杯５･小椀１、須恵器壺１が出土した他、８世紀代の柱穴・ピット状遺構４を検出した。

博　多　195

―博多遺跡群第 244 次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1483 集

令和５年３月 23 日

発　行　福岡市教育委員会

福岡市中央区天神１丁目８番１号

印　刷　有限会社 成光社

福岡市南区大楠１丁目 29 番 33 号

『博多195』正誤表　　福岡市埋蔵文化財調査報告書第1483集			
頁	行/図	誤	正
抄録		発掘期間　20201109～20200107	発掘期間　**20201109～20210107**